

2012 年 12 月の東北地方の天候

【 12 月の特徴 】

○気温は低かった

○東北日本海側の降雪量は多く、日照時間はかなり少なかった

(1) 2012 年 12 月の概況

月の前半は短い周期で低気圧や寒冷前線が通過し、通過後は冬型の気圧配置となった。月の後半は低気圧と高気圧が交互に通過し、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となった。このため、月を通して、東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では天気は数日の周期で変わった。上旬と下旬に強い寒気が南下したため気温は低くなった。東北日本海側では上旬は晴れることがほとんどなく日照時間はかなり少なかった。

月平均気温は低い。月降水量は多い。月間日照時間は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で平年並。降雪の深さの月合計平年比は東北日本海側で 133%と多く、東北太平洋側で 71%と平年並。

(2) 各旬の天候経過

上旬：この期間、短い周期で低気圧や寒冷前線が通過し、通過後は冬型の気圧配置となった。東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では天気は数日の周期で変わった。期間のはじめと終わりに強い寒気が南下したため、気温はかなり低くなった。低気圧や寒冷前線の通過に伴い大雨や大雪となったため、降水量はかなり多くなった。

4 日から 5 日にかけては低気圧の影響で東北太平洋側を中心に大雨となり、岩手県では日降水量が 100mm を超えた所があった。6 日は寒冷前線が通過したため、また 8 日は低気圧が通過したため秋田県と山形県で大雨の所があった。6 日から 10 日にかけては東北日本海側を中心に大雪となり、9 日から 10 日にかけては山形県と福島県で日降雪量 50cm 以上の所があった。

平均気温はかなり低い。降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。

中旬：期間のはじめと終わりは冬型の気圧配置となり寒気が南下した。期間の中頃は高気圧と低気圧が交互に通過し暖気が流入した。東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多く、寒暖の変動があった。

11 日から 12 日にかけては冬型の気圧配置となったため東北日本海側で大雪の所があった。16 日は低気圧が東北地方を通過したため秋田県で大雨の所があった。18 日から 20 日にかけては冬型の気圧配置となったため東北日本海側で大雪の所があった。

平均気温は平年並。降水量は、東北北部で多く、東北南部で平年並。日照時間は東北北部で少なく、東北南部で多い。

下旬：期間のはじめに低気圧が通過した後、冬型の気圧配置となった。期間の終わりにも低気圧が通過した。東北日本海側では曇りや雪の日が多く、期間の終わりは雨が降った。東北太平洋側では天気は数日の周期で変わった。期間の中頃に強い寒気が南下したため、気温は低く、東北北部を中心にかなり低くなった。

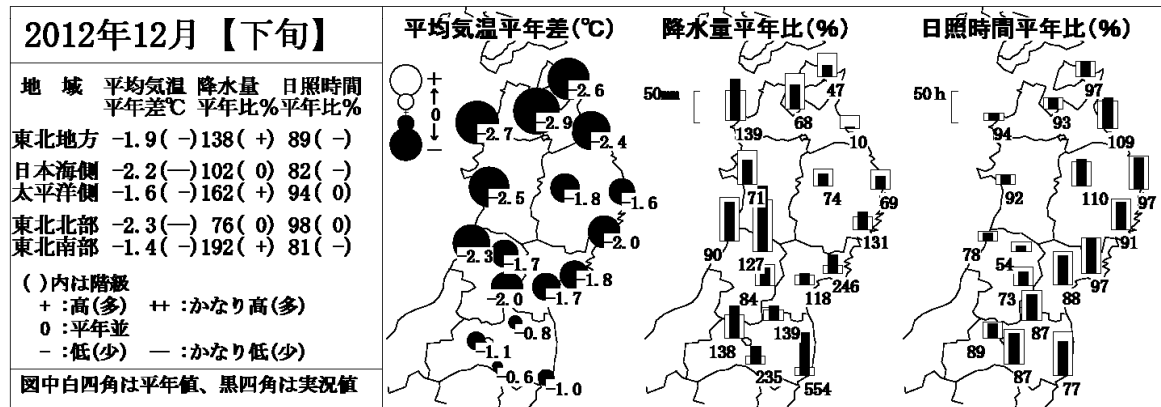
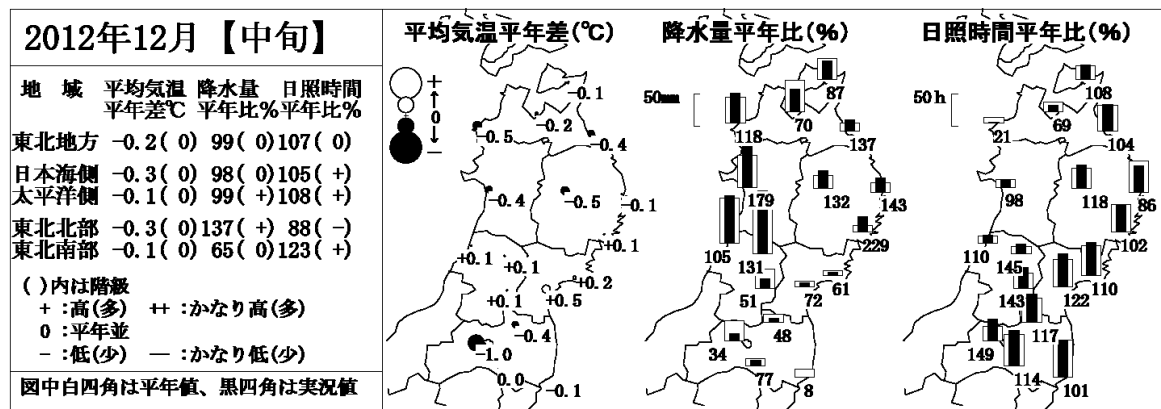
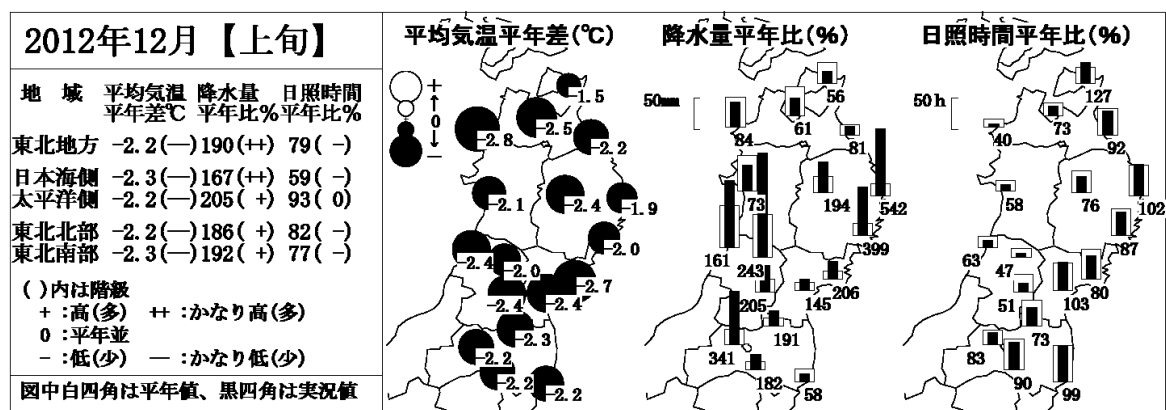
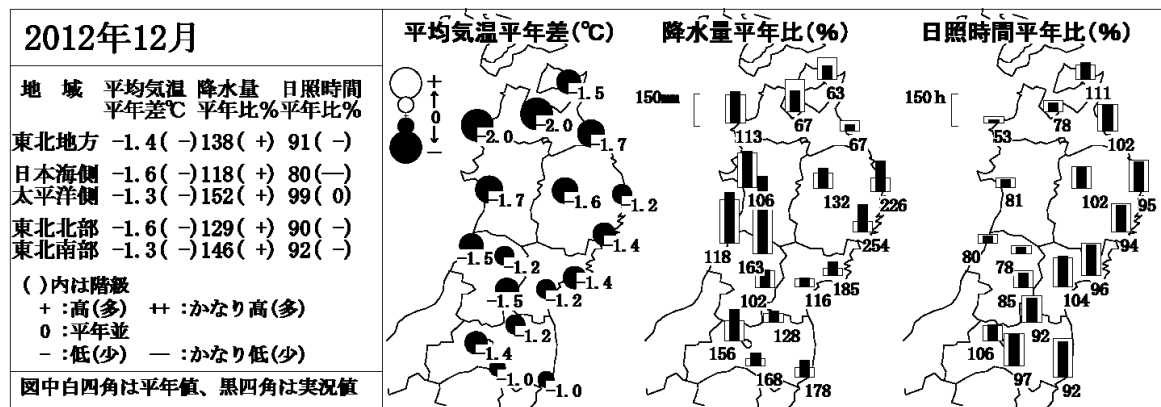
23 日から 27 日にかけてと 31 日は冬型の気圧配置となったため東北日本海側を中心に大雪となり、25 日から 26 日にかけては青森県と山形県で、31 日は福島県で日降雪量 50cm 以上の所があった。30 日は低気圧が通過したため福島県で大雨の所があった。

平均気温は東北北部でかなり低く、東北南部で低い。降水量は東北北部で平年並、東北南部で多い。日照時間は東北北部で平年並、東北南部で少ない。

(注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています(速報値)。細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。気温の高い・低い、降水量、日照時間、降雪の深さ合計の多い・少ないは、特にことわらない限り平年と比較した階級を表します。平年値の統計期間は 1981～2010 年です。階級区分については、3 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2012年12月の月・旬平均気温の平年差、降水量・日照時間の平年比



平年値の統計期間は1981～2010年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東河北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2012 年 12 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級			降水量(平年比)階級			降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級			降雪深さ(平年値)階級		最深積雪(平年値)階級	
	(℃)	(℃)		(mm)	(%)			(h)	(%)		(cm)	(cm)	(cm)	(cm)
青 森	-0.5	(-2.0)	—*	100.5	(67)	—*	23	41.3	(78)	—	154	(153)	○	37 (51) ○
深 浦	0.5	(-2.0)	—*	150.5	(113)	+	19	16.8	(53)	—*	107	(67)	+	36 (20) +
む つ	-0.2	(-1.5)	—	65.0	(63)	—*	14	79.2	(111)	+	49	(91)	—	11 (24) —
八 戸	0.1	(-1.7)	—	33.0	(67)	○	7	127.1	(102)	○	18	(40)	—	6 (9) ○
秋 田	1.2	(-1.7)	—	169.0	(106)	○	23	36.6	(81)	—	108	(74)	+	40 (17) +*
盛 岡	-0.6	(-1.6)	—	93.5	(132)	+	13	103.3	(102)	○	64	(53)	○	25 (19) +
大 船 渡	2.2	(-1.4)	—	128.0	(254)	+*	9	123.5	(94)	—	7	(11)	○	4 (4) ○
宮 古	1.9	(-1.2)	—	146.5	(226)	+*	6	140.2	(95)	—	3	(16)	—	1 (8) —
仙 台	3.3	(-1.2)	—	42.5	(116)	+	7	143.6	(104)	○	9	(9)	○	3 (6) —
石 巻	2.1	(-1.4)	—	62.0	(185)	+	8	143.2	(96)	○	6	(6)	+	3 (5) ○
山 形	1.1	(-1.5)	—	84.5	(102)	○	13	68.7	(85)	—	66	(77)	○	20 (23) ○
新 庄	0.4	(-1.2)	—	363.5	(163)	+*	26	30.2	(78)	—	289	(154)	+*	104 (48) +*
酒 田	3.0	(-1.5)	—	240.5	(118)	+	28	35.3	(80)	—	58	(56)	+	21 (14) +
福 島	3.2	(-1.2)	—	53.5	(128)	+	10	114.7	(92)	—	16	(28)	○	9 (11) ○
若 松	0.8	(-1.4)	—	146.5	(156)	+	18	75.1	(106)	○	123	(83)	+	40 (30) +
白 河	2.0	(-1.0)	—	60.5	(168)	+	9	147.0	(97)	○	17	(21)	○	5 (8) ○
小 名 浜	5.4	(-1.0)	—	79.0	(178)	+	10	168.3	(92)	—	()	()	()	()

(注) 1. 平年値は1981～2010年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+: 高い (多い) ○: 平年並 -: 低い (少ない)

各階級の区分値は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に*を付加した。この場合には

かなり高い (多い) かなり低い (少ない)

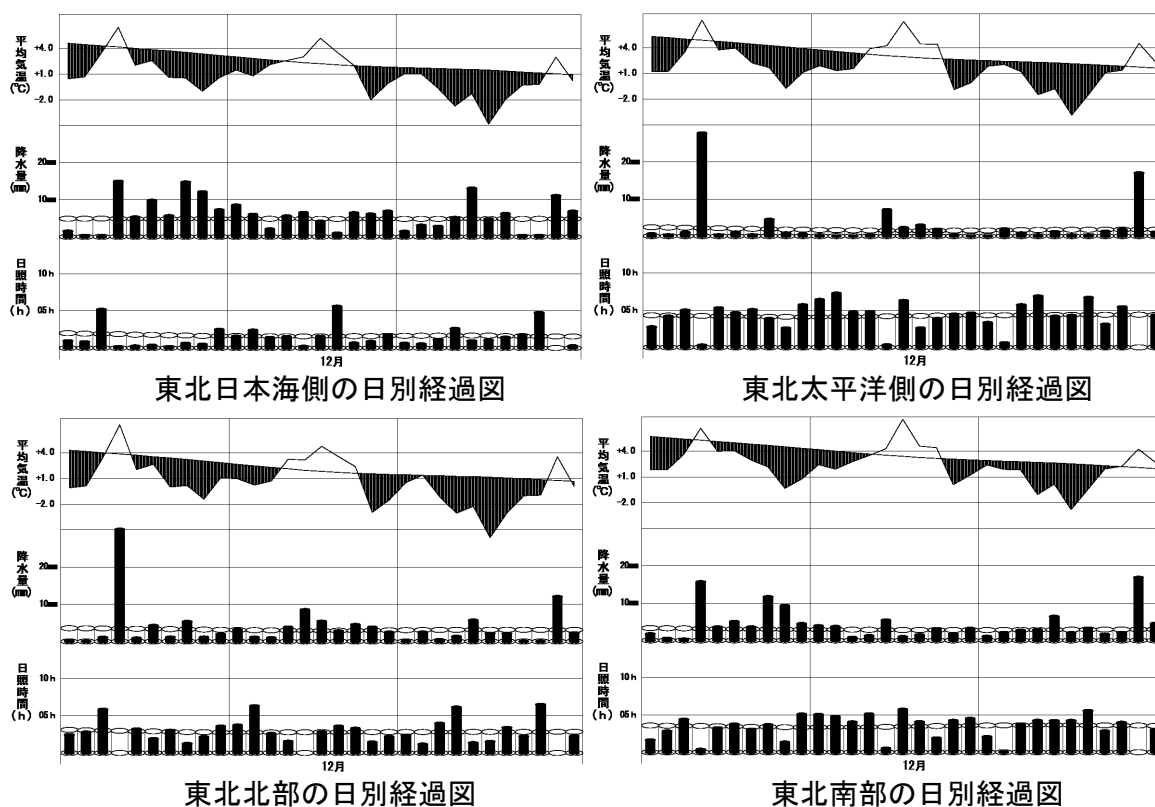
と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。) 付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが、]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2012 年 12 月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）
 気温の陰影は平年値より低いことを示す。

(6) 2012 年 12 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

3 位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新

3 位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

3 位以内はなし

月降水量少ない方からの順位更新

3 位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新

3 位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新

3 位以内はなし

降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新

3 位以内はなし

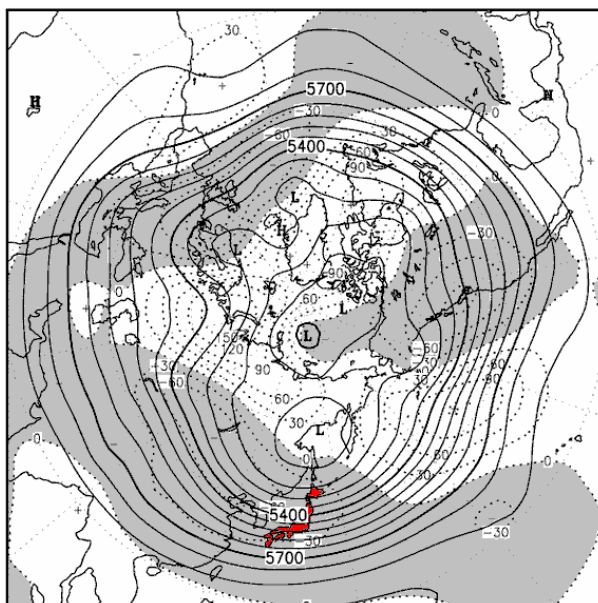
月最深積雪大きい方からの順位更新

3 位以内はなし

(7) 2012 年 12 月の循環場の特徴

500hPa 高度は、シベリアから北太平洋にかけての高緯度帯が正偏差となった。一方、アジアから日本の東にかけての中緯度帯は負偏差となり、日本付近は寒気に覆われた。

東北地方は、冬型の気圧配置の日が多く、強い寒気が南下した時期があった。



2012 年 12 月の平均 500hPa 高度

実線は高度(m)、間隔 60m。点線は偏差(m)、間隔 30m。陰影部は負偏差（寒気に対応）。

(8) 2012/2013 年寒候期 季節現象

2012/2013年寒候期 季節現象(初日)									
官署名	初 霜			初 氷			初 雪		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
青森	10. 27	10. 29	10. 28	11. 22	11. 3	11. 18	11. 18	11. 6	11. 15
秋田	11. 22	11. 11	11. 18	11. 22	11. 17	11. 18	11. 18	11. 13	11. 15
盛岡	10. 27	10. 22	11. 10	11. 11	10. 27	11. 10	11. 18	11. 8	11. 15
仙台	×	11. 10	11. 18	11. 27	11. 21	11. 26	11. 27	11. 24	12. 1
山形	10. 30	10. 30	11. 10	11. 17	11. 1	11. 11	11. 21	11. 18	11. 16
福島	11. 19	11. 9	11. 18	11. 19	11. 14	11. 27	11. 27	11. 26	12. 9

(注) 本年の仙台の初霜は、積雪によって霜が観測できなかった期間があり、欠測(×)となった。

初冠雪									
山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年	山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年
ハッコウダサン 八甲田山	1585	10. 19	10. 17	10. 3	ガンドサン 雁戸山	1485	11. 2	10. 29	11. 10
イワキサン 岩木山	1625	10. 24	10. 21	10. 3	リュウザン 瀧山	1362	11. 2	10. 30	11. 15
タイヘイザン 太平山	1171	11. 14	11. 2	11. 15	イズミガタケ 泉ヶ岳	1175	11. 15	11. 6	11. 16
イワテサン 岩手山	2038	10. 13	10. 13	10. 2	ザオウザン 蔵王山	1841	11. 3	10. 24	10. 4
ガッサン 月山	1984	10. 24	10. 18	10. 3	アヅマヤマ 吾妻山	1949	11. 2	10. 23	10. 3
アサヒダケ 朝日岳	1871	10. 24	10. 22	10. 3					

(注) 蔵王山は熊野岳、吾妻山は一切経山の標高を示す。